

製品名: Nrf2 (アセチル Lys599) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06235**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	アセチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	75-100kDa

抗原情報

遺伝子名	NFE2L2
別名	NFE2L2; NRF2; Nuclear factor erythroid 2-related factor 2; NF-E2-related factor 2; NFE2-related factor 2; HEBP1; Nuclear factor, erythroid derived 2, like 2
遺伝子 ID	4780.0
SwissProt ID	Q16236
免疫原	K599 のアセチル化部位周辺のヒト Nrf2 の C 末端領域から得られた合成アセチルペプチド。

背景

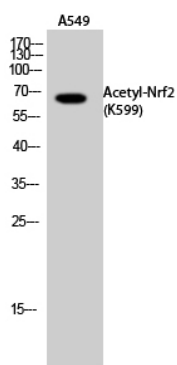
この遺伝子は、塩基性ロイシンジッパー (bZIP) タンパク質の小規模ファミリーに属する転写因子をコードしています。この転写因

子は、プロモーター領域に抗酸化応答エレメント (ARE) を含む遺伝子を制御します。これらの遺伝子の多くは、フリーラジカルの生成を含む損傷や炎症への応答に関与するタンパク質をコードしています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが特徴付けられています。[RefSeq 提供、2015年9月]、ドメイン: N末端に酸性活性化ドメイン、C末端にDNA結合ドメイン。機能: 標的遺伝子のプロモーター領域にある抗酸化応答エレメント (ARE) に結合する転写活性化因子。酸化ストレスに反応する遺伝子の協調的な上方制御に重要です。βグロビン遺伝子座制御領域の過敏部位 2 のエンハンサー活性を媒介することにより、βグロビンクラスターの遺伝子の転写活性化に関与している可能性があります。PTM:酸化ストレスに反応した PKC による Ser-40 のリン酸化により、NFE2L2 は細胞質阻害因子 KEAP1 から解離し、核への移行が促進されます。類似性:bZIP ファミリーに属します。類似性:bZIP ファミリーに属します。CNC サブファミリーです。類似性:1つの bZIP ドメインを含みます。細胞内局在:ストレスのない状態では細胞質に存在し、求電子剤による誘導により核に移行します。サブユニット:ヘテロ二量体。未知のタンパク質と DNA を結合する可能性があります。KEAP1 と相互作用します。成人の筋肉、腎臓、肺、肝臓、胎児の筋肉で最も高い発現を示します。

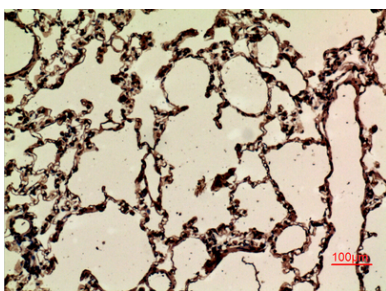
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

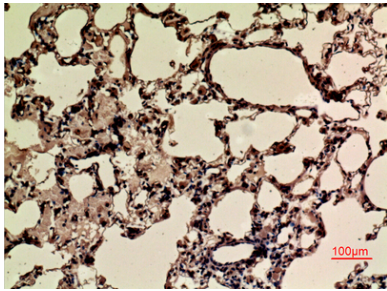
画像データ



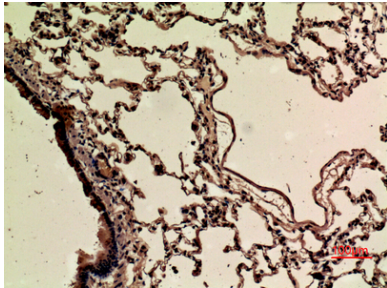
アセチル Nrf2 (K599) ポリクローナル抗体を用いた A549 細胞のウェスタンブロット解析。抗体は 1:1000 に希釈した。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



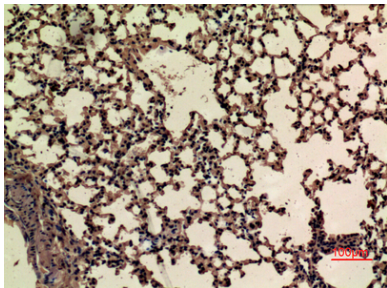
パラフィン包埋ラット肺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



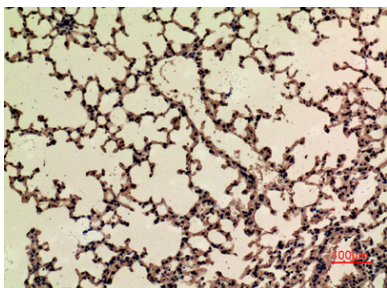
パラフィン包埋ラット肺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



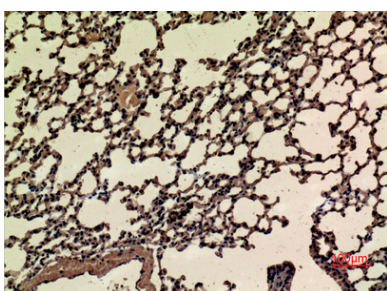
パラフィン包埋ラット肺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋マウス肺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋マウス肺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋マウス肺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された